

2024

8-9月

はしかけニューズレター

2024 年度 第3号 通巻 178 号

2024 年(令和6年)8月1日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 西川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
(10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
(14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
(23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月～10月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 365人

グループ数 25グループ

(2024年 7月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

残暑厳しい日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。琵琶湖博物館内では、セミの元気の鳴き声が鳴り響き、夏本番の訪れを感じます。生活実験工房の田んぼの稲も、スクスクと元気に育っております。夏本番となり、暑い日々が続きますが、元気で乗り切りましょう。

さて、事務局よりお知らせがあります。3点についてご報告いたします。

■2024 年度 第2回はしかけ登録講座

2024 年度第2回はしかけ登録講座を下記日程で、オンラインおよび対面にて開催予定です。お近くに、はしかけにご興味をお持ちの方がいらっしゃれば、お知らせ頂けると幸いです。

(オンライン)

日時:2024 年 9 月 8 日(日)～2024 年 9 月 22 日(日) のうち任意の時間 (1 時間半程度)

(対面)

日時:2024 年 9 月 28 日(土) 13 時 30 分～16 時 00 分 (受付時間 13 時 00 分～)

場所:琵琶湖博物館 セミナー室

※詳細は、琵琶湖博物館 HP をご覧くださいませ。

■2024 年度 びわ博フェスについて

2024 年度は、11 月 16 日(土)、17 日(日)関西文化の日に、「びわ博フェス 2024～博物館の新たな可能性～」を開催いたします。今年度も、各はしかけグループの皆様にはぜひ「びわ博フェス 2024」に積極的に関わっていただき、ポスター展示、ワークショップ、3 分間トークの場を活用頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

■第 32 回企画展示「湖底探検Ⅱ ー水中の草原を追うー」について

身近なようで、実は野生の姿があまり知られていない水草について、豊富な水中映像や観測成果をもとに琵琶湖の中での生態や人との関りについて紹介します。期間は 2024 年 7 月 20 日(土)～ 11 月 24 日(日) で、企画展示室にて開催中です。7 月 20 日(土)には、オープニングセレモニーが開催されました。ぜひ、ご覧ください。

(西川 真里奈)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 60名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■5月19日(日) 第181回定例調査

場所: 野洲川(守山市三宅付近)

参加者: 16名

朝から天気予報で雨が心配されましたが、10時の開始時点ではまだ雨は降っておらず、川の流量は少し減水傾向でした。今年はアユの遡上が少ないとのことでしたが、堰堤下にはコアユ釣りの人がおり、少し大きめのアユが釣れていました。

1時間の採集で、魚は10種確認され、ヨシノボリ類が最も多く捕獲されました。メスは腹部がふくれ産卵期を迎えていました。その他、オイカワやウキゴリ、アユなどが捕獲でき、砂礫中からは直径2-3mmの孵化直前の卵が見つかり、ニゴイの卵の可能性がありそうです。スジエビなどの甲殻類も比較的多く採捕されました。11時頃から捕獲生物の観察を行いました。その頃から小雨が降り出し、11時半ごろ終了となりました。(報告: 藤岡康弘)

■6月16日(日) 第182回定例調査

場所: 犬上川、芹川(彦根市)

参加者: 24名

前夜の雨の心配もなく、晴れ渡る青空で第182回うおの会定例調査が始まりました。集合場所には初参加の2家族をふくめて24名のメンバーが集まり、5班に分かれて犬上川と芹川の調査に向かいました。

気温30℃の強い日差しのなか、熱中症対策に気を配りながら、どの班も駐車場所や河川へのアクセスに苦慮しながらの調査となったようです。産卵のためでしょうか、今回は多くの場所でヨシノボリ類を確認できました。また例年に比べアユの姿が少なく感じました。今年のアユの不漁を感じる調査となりました。さらに犬上川の中流は水が無くなっており、琵琶湖から遡上する魚を拒んでいるかのようにも見えました。

このような状況でしたが、初参加のお子さんたちはベテランの運営委員のアドバイスもあって多くの魚に出会うことができました。次回からも楽しく参加して、興味を持ち続けてほしいと思いました。(報告: 手良村知央)

■6月23日(日) 湖魚をさばく体験会

場所: 琵琶湖博物館 参加者: 20名

博物館の生活実験工房で、魚をさばく体験会を行いました。用意された魚、エビは、ビワマス、アユ、ワカサギ、イトコナマズ、ニゴイ、ハス、ホンモロコ、デメモロコ、スゴモロコ、ゼゼラ、ニゴロブナ、ヌマチチブ、テナガエビ、スジエビなど。それぞれさばく前に、外部形態の観察を行いました。

イトコナマズは横に突き出した目が特徴で、ひっくり返しても裏から目が見えるのを、皆で確認。ホンモロコほかモロコ類が雑多に入ったバットからは、わずか2尾だけいたデメモロコと、少数のスゴモロコ、ゼゼラを探しだして並べ、田畑学芸員から見分け方を教わりました。ニゴイは多数いたので、頭部から耳石(骨の中にある、平衡感覚器官)の摘出に挑戦。解剖用のハサミが無かったため苦戦しましたが、5mmほどの扁平石を取り出すことができました。ニゴイの胃の中からは多数のワカサギの稚魚が。エリ(定置網)の中に一緒に入り、たらふく食べていたところを漁獲されてしまったようです。

観察後は、それぞれの魚をさばく練習を行いました。飛び散らないウロコの取り方、三枚おろしのコツ、イトコナマズのヌメリ取り、ニゴイの骨切り、などの技を学びました。魚や材料を持参して下さいました皆さん、ありがとうございます。(報告: 中尾博行)

【今後の予定】

8月は調査活動はお休みです。9月以降の予定の詳細はメールにてお知らせします。

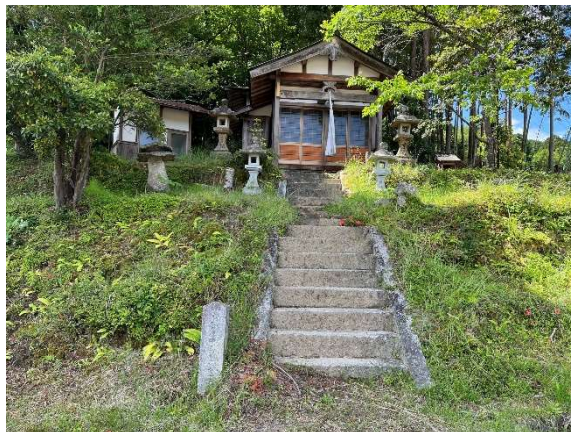
【活動報告】

■令和6年6月5日(水)

場所:甲賀市信楽町 参加者:2名

甲賀准四国の石碑を発見

奈良国立博物館で開催されている「空海」生誕1250年記念特別展に向かうために信楽町杉山を走行中に偶然にも、甲賀准四国第67番札所の石碑を発見した。調査データには、当地に甲賀准四国の札所は無いため、不思議な発見であった。



■令和6年6月19日(水)

場所:甲賀市信楽町 参加者:2名

第67番札所の再訪

甲賀准四国設置由来によると、第67番札所は信楽町黄瀬の寶国寺で、2017年7月の調査では、掛額、石碑は発見できなかった。今回は、前週の発見を受けて再訪して調査した。



石碑の側面には昭和3年11月と記載されていることが解った。明治45年に甲賀准四国が設置された時は、信楽町黄瀬の寶国寺が札所であったが、後に信楽町杉山のこの地に移転された模様である。また、同時に掛額も発見することができた。この発見により甲賀准四国の98カ寺のうち55カ寺で石碑を発見できた。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 桝永 一宏

【活動報告】

■ 2024年 5月 26日(日) 立木観音(大津市) 参加者 3名
参拝の後、散策および吟行。

「石段八百余段」。このように表示されているものの、本当にあるのだろうか？という疑いから、楽なコースを何度もすすめていただいたのに
敢えて茨の道へ。

踊り場ごとに歌碑が建てられているのでその都度鑑賞しながら頂上へ。
ここで出会った人は、みな挨拶を交わし、上がる人は喘ぎながら、あとの
どのくらいか聞き、下る人は笑顔で励ますということをしていました。

☆立木観音 de 俳句／この日出会った季語

木下闇、夏鶯、山雀、青楓、ミヤオソウ、揚羽蝶、蜻蛉、蟻、蜘蛛の巣他

☆おまけのひとつがんばり

奥の院までおよそ八百段。さらになだらかな中腹の道を五町の道標まで
行くと木々の間から三上山や田植を終えた水田、そして収穫前の黄色い
麦畑が見えてきて、そのコントラストが美しかったです。



■ 2024年 6月 23日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名
館内活動。スケッチおよび吟行をしました。

【活動予定】

○ 2024年 8月 25日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや館内でスケッチおよび吟行を行います。

活動時間 10時30分～(16時)

○ 2024年 9月 22日(日) 水生植物園(草津市)

散策やスケッチ、および吟行を行います。

活動時間 10時30分～(16時)

※10時30分に券売機付近集合

※持ち物／スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

※写真／立木観音の石段と梅雨の湖岸





(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19 名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

■5月29日(水) 参加者:5名

桜の木を切ってスピンドル作り。木をまっすぐ切るのが難しいので、線を引いて切りました。中心を出したらそこに穴を開けて割り箸を差し込みます。

ヒートンを取り付けて完成。

■6月15日(土) 参加者:5名

各自糸紡ぎ作業。

■6月26日(水) 参加者:5名

工房のカラムシが育ってきたので、刈り取って繊維を取り出しました。

ちゃんと畑で育てたカラムシではないので、脇芽が多く、かなり苦戦しました。

■7月10日(水) 参加者:4名

各自糸紡ぎ作業。真綿、苧麻、羊毛などの糸紡ぎを行いました。



5月29日 スピンドル製作



6月26日 カラムシの繊維をとる

【活動予定】

■織姫の会

7月27日(土)、9月7日(土)、25日(水)、10月9日(水)、26日(土)

8月はお休みです。



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22 名】

グループ担当職員: 里口 保文

■2024年5月の活動

○野外調査 瀬田川鹿跳橋付近

日時: 5月18日(土) 10:00~14:00 参加者 大津の岩石調査隊7名 はしかけ、びわ探 3名参加

目的: 田上花崗岩による接触変成を受けたホルンフェルスの調査、及び断層の痕跡、ポットホール等の観察

・貫入花崗岩とホルンフェルスの調査

花崗岩が貫入した泥質・砂質岩層はホルンフェルス化して、色の違う層状として観察できた。泥岩ホルンフェルスは黒く、砂岩ホルンフェルスは淡い紫色、花崗岩部は灰橙色となっていた。ホルンフェルスに堇青石が僅かに見られた。

他の花崗岩部は、細粒から中流黒雲母花崗岩でペグマタイトが現れていた。

・ポットホールの観察 (佐久奈度神社河岸へ移動)

丸い形、長くうねった形のものが多く見られた。水の流れに乗った小石で削られ、凹地には丸い小石が留まっていた。

・感想

昨年調査で沢山見つけたホルンフェルス堇青石の転石は、採取できなかった。一方、花崗岩岩脈が幾つも確認された。以前の勉強会で話題になったペグマタイトも、殆ど流されていた。ポットホールの観察では、小石により削られた曲線が印象的で、溪谷の荒々しくひび割れた岩石とポットホールの柔らかな曲線、どちらも花崗岩という不思議だった。(参加者)

○石灰岩の標本採取 多賀町権現谷付近

日時: 6月13日(木) 10:00~14:30 参加者 大津の岩石調査隊7名 びわ探2名 環境学習センター3名

目的: 12月の体験学習プログラム【わくわく探検隊】岩石標本を作ってみようの準備

・権現谷・炭原(あけんばら)付近の川原にて石灰岩、方解石、チャートなどを採取

・石灰岩と玄武岩の接する露頭の調査・観察

・感想

川原は、崖から落ちてきた石灰岩と、流れてきた石灰岩の小石で敷き詰められたように見えた。約2億数千年前の海洋底の堆積物がプレートにのって運ばれ付加した、と言うことが身近に感じられた。(参加者)

■今後の活動予定

7月21日(日) 13:30～15:30 偏光顕微鏡による薄片観察勉強会 琵琶湖博物館実習室 2



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ担当職員:加藤 秀雄、金尾 滋史

【活動報告】

■4月13日(土)13:00～15:00 総会・2024年度の活動計画 参加者9名

今年度の活動について、年間スケジュールや内容について話し合いをしました。昨年度行くことができなかった撮影会の場所などを中心に、今年度も引き続き大橋宇三郎コレクションを軸とした県内各地の風景の撮影を行う予定です。また、平成17年4月にはしかけグループ温故写新が発足してから今年度でちょうど20年目に入るため、写真展などの記念事業を行うことを新たな目標として活動することになりました。

■5月18日(土) 10:00～15:00 おでかけ撮影会 in 彦根 参加者5名

温故写新では3度目となる彦根市内での撮影会を開催しました。大橋宇三郎コレクションの撮影地のうち、温故写新でまだ撮影ができていなかった河原町芋町地区伝統的建造物群保存地区(重要伝統的建造物保存地区)、および善利組足軽屋敷群(彦根市指定文化財)を巡りました。

午前中に訪れた河原町芋町地区は、彦根城下の南東隅に作られた商家町で、街路に沿って建てられた江戸時代から昭和初期の町家の様子などを撮影しました。ユネスコの世界遺産登録に向けて盛り上がる彦根城周辺とは対照的に、城下町の隅にあたるこの地区は落ち着いた古の街並みがよく残されていました。この街並みと人々の生活が、今後どのように変化するかあるいはしないのか、カメラを通して見守っていきたいと思いました。

午後からは彦根城の外堀の外側に位置する芋橋2丁目の足軽屋敷群に移動しました。この地区には、古民家を利用したカフェなども出ていましたが、防御を目的に曲げられた狭い道は、彦根城築城当時の町割の面影を残しており、今回はそれらを存分に写真に収めることができました。屋敷群内の四つ角にある辻番所は、一般公開を始めて10周年を迎えたばかりということで、彦根辻番所の会の渡辺会長様より番所を利用した市民活動の様子も含めてご説明をいただき、はしかけ活動の参考とすることができました。

■6月15日(土) 10:00～12:00 おでかけ撮影会 in 八日市 参加者5名

今回は東近江市 近江鉄道八日市駅周辺の撮影会を実施しました。まず、八日市「ほんまち商店街」を歩き今の様子と今に残る古き良き物を撮りました。多くの店は閉店されていますが、古い店舗を活用して新しい店もいくつかオープンされていました。ガラス容器等の食器店では、魚捕獲用の道具があり大変興味深かったです。

また、江戸時代から続く老舗のあらもの店では、手作りの竹籠やねずみ取り器、琵琶湖のヨシを使った葦簀など記録に残しておきたい物がたくさんありました。その後、新八日市駅、太郎坊神宮前駅を撮影し、太郎坊宮を参拝しました。太郎坊宮の本殿前からは、八日市地区の南方が一望でき、次の機会に行きたいところ(飛行場跡や掩体壕)を検討しました。7月は長浜市で撮影会を行う予定です。

■7月13日(土) 10:00～ おでかけ撮影会 in 長浜 参加者7名

今年度の活動方針の一つは「変わりゆく滋賀の街並みや景観を写真データとして保存する」です。そのテーマに従い「長浜市街」を散策しました。コースは、JR長浜駅を基点として『豊国神社』『黒壁スクエア』『大通寺』『長浜八幡宮』の順で巡りました。

『豊国神社』は、長浜の町衆が豊太閤を慕い崇めて守ってきた歴史がそのまま引き継がれており、以前に訪れた時と変わらぬ佇まいでした。境内の「加藤清正像」「瓢箪池」「虎石」等の数々伝説も親しまれている一因でしょう。

『黒壁スクエア』は、多くの観光客でにぎわっていました。街の雰囲気も団体客ではなく若いリピーターが訪れ、成熟した観光地に変わっていました。1989年、黒壁1号館「黒壁ガラス館」のオープン以来、古い建築物の再生活用を続けて来た成果なのだと思います。

『大通寺』長浜城跡に造成、本山は東本願寺、地元では「御坊さん」と呼ばれています。「ながはま御坊表参道」を進むと豪壮な山門が現れて圧倒されます。堂内の玄関・大広間・書院にある狩野山雪ら当時の一流絵師による襖絵は素晴らしい。往時の隆盛を感じることができます。

『長浜八幡宮』は、ネスコ無形文化遺産の祭礼「長浜曳山まつり」を行うことで有名です。勇壮な「曳山巡行」はここから始まりますが、この伝統を守っている市民心意気があふれている祭りです。

今回も、2024年長浜の姿を「写真データ」として、捉えることが出来ました。

【活動予定】

■8月中 琵琶湖博物館の画像資料の活用に向けた打ち合わせ

※活動に参加される方は、事前にグループ担当学芸員までご連絡ください。

※温故写真新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行っています。ご希望の方は温故写真新担当学芸員(金尾・加藤)までご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 大久保 実香

【活動予定】

秋以降の活動再開を予定しています。

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、近江八幡市内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■化石林の観察及び植物化石の採取・調査

日時: 6月16日(日) 10:00~13:00

場所: 滋賀県東近江市 参加人数: 9名

活動内容: 5月12日の下見をもとに、東近江市内の愛知川河床にて化石林の観察及び化石の調査を行いました。現地調査の前に、愛知川漁業協同組合事務所の近くにある、化石樹の屋外展示を見学しました。化石樹の展示を見ながら、学芸員の山川さんから、1990年に行われた愛知川化石林の調査の様子などについて説明がありました。メンバー達からは、埋没林と化石林の用語の違いや、珪化木などについての質問があり、山川学芸員が回答するといった場面もありました。多くの興味深いお話を聞くことができ、その当時の風景や環境に思いを馳せながら調査地に向かいました。

調査地では、化石林の観察及び植物化石の採取や調査を行いました。今回の活動目的は「屋外調査の方法について実習し、自分たちで調査できる力をつける」ということだったため、多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトに参加して学んできたことや、今までのフィールド活動で経験してきたことをいかし、どのように調査を進めていけばよいか現地にて皆で相談しながら活動しました。

まず、基準となる化石樹を決め、その化石樹からその他の化石樹や採取した化石までの距離を測り記録を取りました。化石の採取の際には、化石を踏んで壊してしまうことがないように注意し、地表面をよく観察しながら調査しました。以前の活動で作成した粒度表で、土の粒度も観察しました。活動終了時には、その日の調査内容を報告し、参加者で共有しました。調査後の地表面はできるだけ元の状態に戻しておくなど、屋外調査のマナーについても実践するようにしました。採取した植物化石については、各自で持ち帰って化石のクリーニングを行い、何の化石か調べることにしました。今回の活動については、後日、報告会を行い、課題点や反省点なども振り返りつつ、結果をまとめていきたいと考えています。



【皆で協力し、巻き尺を伸ばしながら計測】

【活動予定】

■愛知川河床での観察・調査の振り返り

(時間があれば「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採取された植物化石のクリーニングも行う予定)

日時: 7月21日(日) 14:00~17:00

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

■植物化石の勉強会

日時:8月下旬 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館

【お知らせ】

■現在、古琵琶湖発掘調査隊では、都合により会員の新規加入の募集を停止しております。



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:米田 一紀

【活動報告】

■活動はありませんでした。

【活動予定】

■ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。
いつでもお待ちしております！



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:奥田 岬

■5月25日(日) フィールド整備とお楽しみ会 参加者7名

いつも体験教室で使わせてもらってるフィールドで楽しもうという企画！

まず、大きな桜の枯れ枝が危ないので切ることに。チェーンソーで木の中ほどをcut！！みんなの力と協力で安全に切り倒しました。玉切りにして小テーブルに活用します。枝類は冬のたき火の材料にしましょう。

今日はお楽しみ会なので、それぞれのいいことしました。

- ・植林した場所の整備。
- ・季節のタケノコをたき火で焼いていただき。
- ・ゆっくりのんびり過ごしました。

整備はまだまだやることはいっぱい！また、やりましょう。(会員)

活動に集まった里山の会のメンバーに、いろいろお話を聞くことができました。里山の会には、森林や竹林の整備活動や、里山をみんなで楽しむ活動など、里山の会の他のフィールドでも活動しているメンバーも多くいることを知ることができました。山や森が好きなメンバーが、それぞれの経験を持ち寄りながら、会の活動を進めてきたことを心強く感じました。(参加学芸員)



■6月29日(土) 夏の里山体験教室下見 参加者4名

7月7日(日)の夏の里山体験教室に向けて下見会を行いました。最初に昆虫採集を行う場所で実際にどのような生物がいるかを確認しました。バッタやトンボなど多くの種類の生物を見ることができました。そして、午後から行う里山整備の打ち合わせを行った後、ハンモックの設置方法を確認しました。私は初めて設置しましたが、慣れたみなさんはものの数分で設置を行っていました。練習を繰り返して身に着けようと思います。



■7月7日(日) 夏の里山体験教室

猛暑であり、屋外活動を行うのに適した気候でなかったため、活動を中止しました。

【今後の活動予定】

9月28日(土) ハンモック虫干し、道具整備



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年は、虫たちが出来来ないうちからウメ・モモの花が咲いてしまったためか、どこもウメ・モモが不作だそうです。早くから花が見られ、私たちは嬉しかったのですが、植物達にとっては、結実できず「しまったっ！」だったのかもしれない。

【活動報告】

6月 2日(日) 栗東自然観察の森 10:00~13:00 すぎ 参加者 3名

駐車場から入ると、セントウソウの葉が沢山(以前よりかなり増えている)。次に、ムラサキケマンの種子を見ようと実を採るが、すぐに弾いてしまう。種子は丸く黒くて端にゼリー状?の白い部分がありこすっても剥がれない。歩きながら、アオギリの幼木、ユリノキ、チャンチン、ハナノキ、アリドオシ、クロガネモチ(雄花)、初めて見るミヤマヨメナを観察。

お目当てにしているササユリ(花、つぼみ)はまだ蕾が多い。周囲にはウバユリの葉が広がり、ササユリの1枚葉、フタリシズカ(実)も見られた。カタクリの葉はもう無い。

その後、シチダンカ(花)(ヤマアジサイの変種)、ヤマアジサイを見て、観察路へ。あれっ?昨年4月に群生していたオドリコソウが無い! 種子が見られるのかと思ったら、枯れ部分も何も無い。そんなに早く他と入れ替わるのかあ。代わりに群生していたのが初めて見るスズムシバナ(館の方に教えてもらった、スズムシソウのことか? 秋の開花を待って再度見に行きたい)。この2種で上手く季節を分けて生育しているのか? これも毎年季節を変えて訪れることで観察していきたい。

そのまま周囲のササユリを見て、奥へ。沼地で、ハンゲショウ(葉はまだ緑のみ)、コウホネ(花)、モリアオガエルの卵塊を見て、坂の上へ上ると、緑の実が沢山落ちていて。落ちて実のは、割れてつぶれて中味の種子がない状態で、鳥が種子だけを食べたと思われた。周りを見渡し見上げると、サルトリイバラの実だと分かった。しかし、こんなに青いうちから食べられていたら実が赤くなるまでに無くなってしまふ、植物からしたらたまったもんじゃない。見回す間に、シヤロノキ(ナツツバキ、つぼみ)、ヒメシヤロも見つけ、観察。この2種は、樹皮も葉もよく似ていて、私は見分けられないが、ここへ来れば花の大きさの違いも見られそう。帰り道で、メグスリノキも見つけ、これもここへ来れば見られる、秋に種子があるかも…、と思いながら帰路へ。

7月 7日(日) 都合により中止

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行こう」方向でいます。
- 8月は例年 お休み、9月 未定
- 10月以降は未定、※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります





(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13 名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

日本珪藻学会第45回大会が、酪農学園大学(北海道江別市)で6月22日(土)、23日(日)に行われました。たんさいぼうの会からは影の会長と会員2名が参加し、以下の発表をしてきました。ただし、いずれも「たんさいぼうの会」名義ではありません。

畑中 顕・吉山浩平・根来 健・大塚泰介:基質の粗さが付着珪藻群集に及ぼす影響(口頭発表)

木本裕也・大塚泰介:深層学習を用いた珪藻分類の試み(口頭発表;大塚が発表を代行)

根来 健:浄水処理(水道)と珪藻類(シンポジウム発表)

なお、今年秋の日本珪藻学会第43回研究集会は、急遽、琵琶湖博物館で10月19日(土)、20日(日)に行われることになりました。集会会長は根来健さん(琵琶湖博物館特別研究員/たんさいぼうの会)で、たんさいぼうの会会員も多くがスタッフとして会の運営に関わることになりました。学生会員は参加無料です。日本珪藻学会の学生会費は現在3,000円/年ですが、来年から1,000円/年に引き下げられることが決定しています。学生・生徒の皆さんで、珪藻の研究をしているか、これからしようと思っている人は、是非とも日本珪藻学会にご入会の上、研究集会にご参加ください。

会員の富さんが5年間かけてゆっくり進めてきた化石珪藻の論文が、もうすぐ投稿できるところまで来ています。他にも野田沼・曽根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進んでいます。

【活動予定】

たんさいぼうの会第78回総会は、9月23日(月・祝)で日程を調整中です。新たに参加を検討されている方は、グループ代表アドレスまで予めご一報ください。個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 35 名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

3月の総会で決定した通り、本年度は、旧安土町南部の小脇山西側に広がる水田における2種のカブトエビの分布と、東近江および湖東地域のなかで私たちがこれまでに調査したことのない水田における大型鰓脚類の分布を明らかにすることを主な目的に調査を実施しました。麦等へ転作や、休耕になっている田んぼが増えて調査に苦労する場面も増えていますが、今年は今までに比べて田植え時期の遅い田んぼが多くなったことも幸いして、長期間にわたって広い範囲で分布調査を実施することができたように思います。

【活動報告】

- ・5月18日に、小脇山西側から瓶割山北側の近江八幡市南部に広がる水田の6地点で、エビ類の分布調査を行いました。小脇山西側の旧安土町南部の3地点では、2種のカブトエビ双方が生息している水田と、アジアカブトエビのみが生息している水田が、それぞれ数筆ずつ見つかりました。一方、瓶割山北側の近江八幡市南部の3地点では、いずれのエビ類の生息も確認することはできませんでした。
- ・5月25日に、旧安土町南部の東海道新幹線沿い、および、東近江市西部の近江鉄道河辺の森駅周辺と新八日市駅北側に広がる水田の計7地点で、エビ類の分布調査を行いました。旧安土町南部の1地点ではエビ類を見つけることはできませんでした。もう1地点ではアメリカカブトエビの生息が確認できました。また、東近江市西部の5地点では、多くの水田でホウネンエビ、カイエビ、タマカイエビの生息が確認されました。
- ・6月2日に、彦根市南西部から豊郷町、愛荘町にかけて広がる水田の4地点で、エビ類の分布調査を行いました。その結果、4地点すべてでカイエビが、3地点でタマカイエビが、2地点でホウネンエビが確認されました。また、愛荘町の1地点では、愛知川より東の湖東地域として初めてトゲカイエビの生息が確認されました。
- ・5月中旬から6月中旬にかけて、長浜市、彦根市、豊郷町、愛荘町、東近江市、近江八幡市、野洲市、草津市の水田において会員有志による追加の分布調査を行い、上記3回の合同調査とあわせて、これまでに調査したことのない43の3次メッシュコードに含まれる水田において、新たにエビ類の生息を確認しました。

琵琶湖博物館屋上に設置している2個のコンテナのうち、アメリカカブトエビのコンテナでは田植えから12日後の5月24日に1個体の発生が確認されました。しかし、6月に入って姿が見えなくなったため、6月3日に大津市内の水田で採集した2種のカブトエビ10個体前後ずつをそれぞれのコンテナに放流しました。なお、代表(山川)の自宅でも昨年より同様のコンテナでアメリカカブトエビの飼育を試みていますが、同じく5月24日に1個体の発生が確認された後、6月11日に死亡するまで19日間生存させることができました。

7月14日に、琵琶湖博物館実習室1で本年度に採集したサンプルの同定会を実施しました。

【活動予定】

これから、標本の同定作業の結果を整理・分析する作業にとりかかります。本年度調査の結果報告会については、改めてメールで日程調整・連絡を行う予定です。



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<グループの活動について>

はしかけの皆さま

●「タンポポ調査はしかけ」は活動を停止しました●

ニューズレター177号でお伝えしたとおり、当グループは活動を停止しました。これまで様々な形で関わっていただいた皆さま、本当にありがとうございました。

<「タンポポ調査・西日本2025」は実施中>

はしかけグループはなくなりましたが、琵琶湖博物館が滋賀県の実行委員会として行う「タンポポ調査・西日本2025」は現在実施しております。2024年の調査は5月31日で終わりましたが、2025年も3月1日から5月31日まで実施します。2025年の調査は、新型コロナウイルス対応で満足な活動ができなかった2020年調査を反省し、本来の参加型調査のスタイルに立ち戻って、広く参加を呼びかけて行う予定です。

調査票がついたチラシは、調査機関に合わせて琵琶湖博物館(主に「おとなのディスカバリー」)でも配布しますし、ウェブからダウンロードもできます。

はしかけ活動に関係なく、ぜひ調査にはご協力ください。よろしくお願いいたします。

(文責: 芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 大久保 実香、松岡 由子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆6月の活動 6/19(水) 9組(幼児14名、大人10名)

雨が続く梅雨の中、奇跡的に晴れました。が、とても蒸し暑い、そんなちこあその日でした。ちこあその活動フィールドの生活実験工房周辺の田んぼや畑、森には生き物たちがあふれています。親子でいろんな生き物を見つけて楽しみました。

春から観察していたナナフシモドキはもう成虫になりました。枝になりきってユラユラと揺れる姿をなんとか見つけて、「えっ、おおきーい!」の聲があがります。キボシカミキリもながーい触覚を揺らしています。オナガミズアオの幼虫も葉っぱに隠れていました。

暑いと言えば、水遊びです。ガチャコンポンプの水を大きなたらいに貯めるとさっそく誰かがジャブン。水の冷たさを楽しみます。

そうそう、春に苗を植えたキュウリがすくすく大きくなりました。が、いつの間にか森の誰かにかじられてしまいました。こんな野生生物と人間の暮らしの関係も、親子で知ってもらっています。

◆7月の活動 7/17(水) 10組(幼児11名、大人10名)

梅雨が明けたような明けてないような、湿度も気温も高いちこあその日となりました。工房のエアコンで涼んだり、ガチャコンポンプで水遊びで体を冷やしたりしながらです。

サツマイモ畑は、草が伸び放題。サツマイモの成長を願って草引きもしました。草の間には、アカシソ、アオシソ、エゴマが勝手生えて出てきています。エゴマはお醤油漬けにして、おにぎりをくるむと美味しいですよ。

原っぱや森には夏の生き物たちが大集合！子どもも大人も捕虫網を持って、トンボやチョウを追いかけます。シオカラトンボ、コシアキトンボ、ウチワヤンマ、セシジイトンボなどが飛んでいました。アオスジアゲハは、黄色の小さな卵からもうすぐ蛹になる幼虫までの成長過程が見られました。それらを観察していると、アオスジアゲハが飛んで来たりと、さらに楽しい観察にもなりました。



オナガミズアオの幼虫をお尻から



たらいにジャブン気持ちいいー



セシジズメの幼虫、おおきいー



何が捕れたのかな？

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
9月	9月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ9月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み)
10月	10月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	コロナ禍の実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ)20名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 6月30日(日) 参加者:15名、学芸員:2名、見学5名

博物館付近や瀬田川のプランクトンを観察しました。いつもプランクトンを採集している烏丸半島の船着き場の壁面にはオオマリコケムシが大発生していました。またプランクトンネットでは別のコケムシの幼生が採集できました。



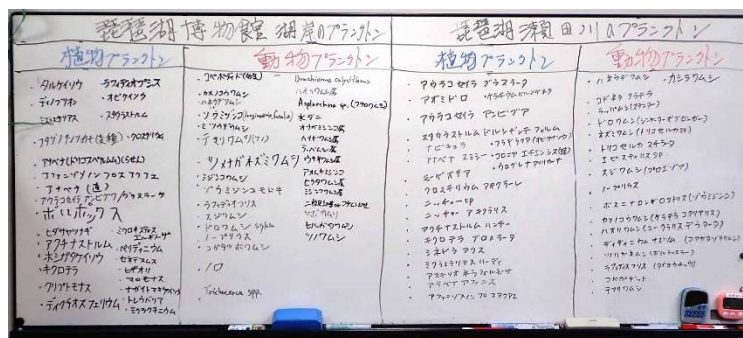
小雨の中の採集



実習室での観察会の様子



コケムシのキフオナウテス幼生



6月30日に観察したプランクトン

■ 7月13日(土) 参加者:5名、学芸員:2名、見学3名

博物館付近のプランクトンを観察しました。今回は珍しくゾウミジンコモドキが大発生していました。ベテラン会員さんの話によると2、30年前には多く発生していたこともあったそうですが学芸員さんもあまり見たことのないとの事でした。



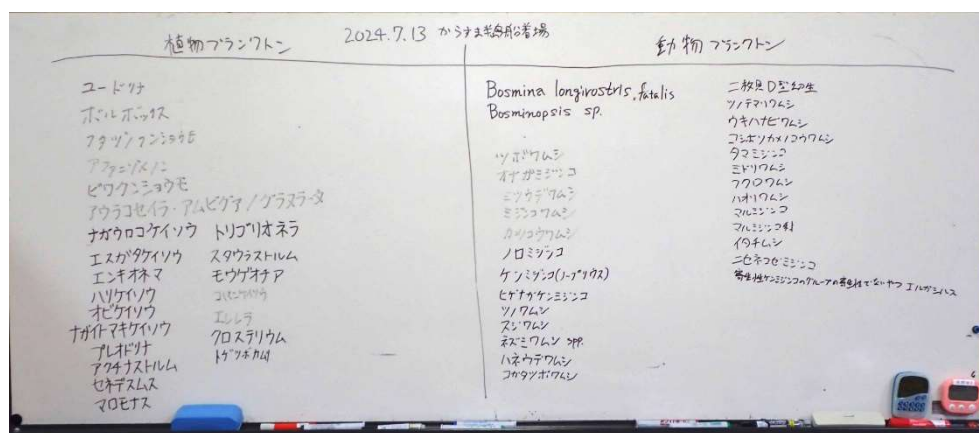
観察会の様子



ナガイトマキケイソウ



ゾウミジンコモドキ



7月13日に観察したプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員: 渡邊 俊洋、桑原 康一

【活動報告】

6月8日(土) 光とかげで写真を撮ろう～水の中の植物編

参加者 12名

水草を被写体にし、日光写真を撮るプログラムです。芦谷学芸員に実物の水草を数種類準備して頂き、参加者に琵琶湖の水草について、形やその水草のくらしについて話して頂きました。写真を撮って作品を作る事で、参加者自身が手に取りよく観察したり、水草の違いに気づいて貰えたかと思います。



7月13日(土) 骨にふれてみよう！

参加者 25名

ほねほねくらぶの皆さんとのプログラムです。ほねほねくらぶの皆さんの骨格標本(シカ、イノシシ、アライグマ、アナグマ、ネコ)を使わせて頂き、参加者の皆さんに触れて貰いました。

骨を観察する時には『博士からの挑戦状』を出し、参加者が積極的に触れて考えて博士役のほねほねくらぶの皆さんに話しかけていました。自分のグループの骨だけでなく他のグループの骨と比べて観察するなど充実した時間になりました。

今回はヒトのホネ手袋をプログラムに初めて入れてみました。参加者の反応も良かったので新たなプログラムになる予感がありました。



(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■5月25日(土) 参加者:3名

ハクビシンの解剖、タヌキも解剖を行いました。

■6月2日(日) 参加者:3名

イタチの解剖、カメの解剖を行いました。

■6月22日(土) 参加者:3名

タヌキの解剖、アライグマの解剖を行いました。

■7月7日(日) 参加者:1名

7月13日に行う予定のわくわく探検隊の準備作業、カメの骨のクリーニングを行いました。

カメの甲羅は腐敗が進みすぎると、甲羅を形作っている骨がバラバラになってしまうので、そうなると元の形に戻すことはほぼ不可能になってしまいます。今回はバラバラになる直前ぐらいのちょうど良いタイミングで水から上げる事が出来たので、脂も目立たずよい状態で標本にできそうで良かったです。



▲亀の甲羅の骨の様子です。

■7月13日(土) 参加者:4名

琵琶湖博物館において、わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう！」をはしかけの「びわたん」と共催しました。

プログラムとしては、まず動物一体分の骨をじっくり観察してもらった後、骨のレプリカをお渡しして、そのレプリカと同じ部位の骨をたくさんある骨の中から探し出してもらい、その後に今まで見てきた骨の中から気に入った骨の一つを選んでいただき、その骨を紙粘土で作ってもらうというものでした。

ご参加いただいた皆さんが興味深く、骨を観察してくださり、動物ごとに比べたりと積極的にプログラムに参加いただいている様子がとても印象的でした。

後半のレプリカ作りも、よく観察して特徴をとらえたものを作っていってくださったので、とても感心してしまいました。



▲わくわく探検隊の当日の様子です。

【活動予定】

8、9月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■6月29日(土) 午前 参加者: 14名

活動内容:小豆ピロー作り(琵琶湖博物館 実習室2)

小豆ピローは、小豆に含まれる水分によって、温めてお手当やリラクゼーションに使用するグッズです。

おとし、初めて小豆ピローを作る活動をしてから、家で何度も使って、もう手放せないものになったと話していたメンバーもいました。緑のくすり箱では、昨年度11月に企画していましたが、実施ができなくて材料が使えていなかったのが、今年度6月ですが実施しました。小豆ピローは一般的には温めて使いますが、実は冷蔵庫で冷やして利用できるのも、夏でも使えます。

使用する布は、オーガニックコットン、ダブルガーゼ、リネンの3種類を準備しました。それぞれの良さがあるので、メンバーは好きな布を選んで作りました。小豆と一緒にハーブを入れたり、アロマオイルをつけたタオルで巻いて使う方法もご紹介させて頂きました。



【参加者の感想】

- ・夏なので小豆ピローを冷やして早速使ってみようと思います。
- ・小豆ピローはずっと体験したかったので、布選びから楽しませてもらいました。
- ・小豆ピローは冬のものと思っていたので、夏にも楽しめてうれしいです。
- ・家に帰ってから小豆ピローを手にとって、小豆の重量感と生地感が気持ちよく、生地選びもとても重要だと思いました。
- ・ほどよい重さで気持ちよかったです。繰り返し使えるのがよいですね。
- ・冷やして使用したらよく眠れました。日課になりそうです。
- ・(小豆ピローを作っている時)おしゃべりをしながらチクチク、楽しい時間でした。

■6月29日(土) 午後 参加者: 18名

活動内容:お香作り(琵琶湖博物館 実習室2)

昨年度、七味作りの活動をしました。その時、メンバーがハーブやスパイスの粉末を沢山準備してくれていました。それが余っていたので、何か利用できることがないか考えたのが、お香作りでした。

お香は、香料となるハーブやスパイスを粉末にして、タブ粉(楠の木の樹皮を粉末にしたもの)を合わせて、水を加えて練り、形を作って乾かして作ります。楠の木は、琵琶湖博物館にもあるそうなので、ぜひ今度観察したいなと思いました。

お香といってもいろいろあり、線香のように火をつけるタイプ、温めた灰の上において香らせる印香や練香、香料を粗く刻んで袋に入れた匂い袋、お手紙に添える文香など。ひととおりどんなものかを見ていただいた後、お香に関する知識をメンバーで共有しました。人数が多かったので、グループを2つに分けて、タブ粉を使ったお香作りとポチ袋で簡単に作れるテトラ型のかわいい匂い袋を交代で作りました。

あまり時間がなかったのが申し訳なかったですが、お家でも賞味期限がきれて使わなくなってしまうスパイスや、育てているハーブを剪定したものを乾かしたものなど、少量の香料で作れるので、ぜひお家でも楽しんで作ってみてほしいです。



【参加者の感想】

- ・今日でお香についてとても詳しくなれました。作ったお香がどんな香りになるか楽しみです。
- ・お香やタブ粉のいいがよくわかり、随分勉強になりました。
- ・初体験のお香作り、楠の木の樹皮の粉がお香のつなぎになるなんて、素晴らしいです。
- ・とても勉強になりました。どんな香りになっているのか楽しみです。
- ・タブ粉に水を加えて練ったときの粘着感にびっくり。乾いたときの変化や火をつけた時の香りが楽しみです。
- ・貴族の遊びから実用化まで自然のものからできているルーツを感じました。

【活動予定】

- ・8月4日(日)10:00~15:00 琵琶湖博物館 生活実験工房
- 午前 藍の葉っぱたたき染めと野菜スタンプ 午後 こんにやく湿布と虫よけスプレー作り



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員: 今田 舜介

【活動報告】

■5月19日(日)10~16時 参加者:10名 高島市マキノ町→大津市北比良

当日は曇り空で、やがて雨がぽつぽつ降り始めましたが、採集・観察をしながら、ムカシトンボ、ベッコウ、ガガンボ、ニワハシヨウ、オオセンチコガネなどいろいろな虫を見ることができました。昼食後に移動、オサムシトラップを回収しましたが、目的のオサムシは見つかりませんでした。



■6月1日(土) 15時~22時 参加者:10名 大津市葛川坂下町

夜間採集までは河原や山道で昆虫採集を楽しみました。山道に入ったグループはヒルの襲来に遭いました。17時頃から卵をもったカワゲラが次々上空に現れ、網で追いかける人もいました。日が落ちると少し冷えましたが、この日の夜間採集ではトビケラ、カゲロウ、ヘビトンボの他、オオミズアオも後半に4頭ほど飛来しました。



また、「虫架け通信」67号、68号、69号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

今年度も1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■ 5月25日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

内容:屋外展示に足を運んでもらうためのPR策を検討中であるがC展示についての、これまでに出了た改善案のうち、「森の探検マップ」子供版、「おすすめの木」、「木の実を使ったリース」の内容を検討した。今後それぞれ粗案作成に着手したい。

■ 6月8日(土)9:45~17:30 参加者:(会員)3名

内容:ケーブル比叡寺駅からスタートし延暦寺根本中堂を参拝し本坂ルートを坂本まで下りながら植物などの観察を行った。草本類は鹿が食わないフタリシズカやシダ類のヒカゲノカズラの群生が見られた。そのほかアメリカオニアザミ、**タツナミソウ属**、**ミミナグサ**やヤマゴボウ属が見られた。木本ではところどころに生えている杉の太木が歴史を感じさせる中イワガラミ、コゴメウツギ、コアジサイ、**バイカツツジ**、シラキ、**ツルアジサイ**、イヌガシ、アカイタヤ、ウラジロノキ、**ミズナラ**、**ブナ**、**イヌブナ**、アカガシ、ゴマギ、**バイカウツギ**、ヤブムラサキなど多様な植物が見られた。現在改修工事中の根本中堂廻廊の屋根は「とちぎ」で厚さ24cmのサワラの板が使われているとのこと琵琶湖の森で存在感が薄いサワラの木に親しみを感じた。(太字は写真あり)



■ 6月22日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)4名 (博物館職員)林

内容:屋外展示のPR策の検討として「森の探検マップ」子供版及び「おすすめの木」の粗案の検討、「木の実を使ったリース」の材料の検討などを行った。今の所、完成目標は「森の探検マップ」と「おすすめの木」は11月のびわ博フェスを、リースは燻蒸のスケジュール(9月2日)を目途とする。

■ 7月13日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

内容:「森の探検マップ」子供版及び「おすすめの木」のフォーマットはほぼ決まったが記載内容については検討を継続する。「木の実を使ったリース」に関しては材料入手の関係で11月末目途に変更した。

【今後の予定】

■ 7月27日(土)10:00~12:00 集合場所:研究交流室 内容:屋外展示のPR策の検討

■ 8月10日(土)は休み、8月24日(土) 内容:未定

以上



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

現在、琵琶湖梁山泊は活動を完全に停止しています。元会員や卒業生たちがときどき琵琶湖博物館に遊びに来て、現在進めている研究の話などを聞かせてくれるだけです。

【活動予定】

この先の活動予定は全く立っていません。琵琶湖梁山泊は琵琶湖博物館第二次中長期計画(2014～2018年)に沿って設立されたグループで、2018年～2019年頃の最盛期には2桁の会員数を誇り、また何人かの会員が華々しい研究成果をあげていました。しかし担当学芸員が相次いで交代したこともあって、コロナ禍以降はほとんど活動ができていません。今、この原稿を書いているのも、本グループの発起人である大塚です。

しかし今も、琵琶湖梁山泊に対する社会的要請が失われているとは思いません。昨今、いくつかの高校にGS(グローバル・サイエンス)コースが設置されるなどして、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を拾い上げてサポートすることが求められています。しかし研究が「進みすぎた」中高生たちに適切な研究指導ができる学校教員は今も少なく、またそのような中高生たちが横のつながりを確保できない状況はいっそう顕著になっています。中学生対象ならばこうした子どもたちをサポートする「びわ湖トラスト」の「ジュニアドクター育成塾」がありますが、高校生の、しかも部活などのグループ研究をサポートする仕組みは他にありません。

今秋のはしかけ登録講座で中高生の新入会員が現れなければ、琵琶湖梁山泊はいったんその旗を畳みます。しかしもし、参加希望者が現れれば、いつでも活動を再開します。集え梁山泊へ！



(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:西川 真里奈

【活動報告・活動予定】

今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、今のところ特に進展はありません。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和6年5月9日(木)9:30-12:00 晴 参加者 7名

1. 活動先: 東近江市 百済寺本町一帯
2. 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、旧愛東町の東北部に位置し、北は百済寺と北坂町、南は上中野町、東は上山町、西は旧湖東町に接する百済寺本町を調査する。百済寺本町集落自体は高野街道から百済寺に至る直線的な参詣道に沿って形成されている。参詣道を境に「北側」「南側」に仕切られ、参詣道との何らかの関係で改変されたのではと感じる集落であり、その歴史や現状を調査する。

- 1) 百済寺本町集落の変遷について。

湖東三山の一つである百済寺は江戸時代は寺社領地と彦根領地で構成されていた。集落は高野街道から直線的な参詣道に沿って形成された門前町である。双方の分岐点付近には小字「木戸」「南側」には通称地名として、「城屋敷」「蔵屋敷」など旅館を思わせる地名が残っていることから推測される。

- 2) 百済寺本町の品俗として。

「淡海木間攪」には、上山本村・下山本村の産土神(うぶすななみ)として「山王十禅師」とあると記されている。

「近江興地誌略」は、これを「日吉十禅師社」と呼び、大萩村を「東門前」と呼称したのに対して、下山本村を「西門前」と呼んでいる。*注釈:「淡海木間攪」(おうみこまさらえ) 塩野義義陳著・田中信精校正

- 3) 灌漑用水関係について。

灌漑用水には乙組(上山町)から続く加領川からの用水路のほか北袋川からの引水もあったが10カ所あった湧水が最も大きな水源となり、高野街道以西の水田を灌漑していた。しかし全体的に用水不足は免れなかったようだ。

切堤溜も現存しており、溜の表記には 東近江市百済寺本町 堤高:2m 堤頂長:61m 貯水量:2.1 km³ 管理者:読合堂町・中里町(共に 旧湖東町)と記してあった。現在は永源寺ダム完成し農業用水などの水利面は改良されている。

- 4) 日吉神社について。

日吉神社は百済寺本町の集落のはずれにある。明治までは十禅師権現と称していて、百済寺の西の鎮守とされてきた。百済寺文書中にも16世紀の十禅師の祭礼の記載があり、社蔵の懸仏(かけぼとけ)には天正16年(1588)の銘があるという。現在は上山町と百済寺本町の氏神である。3月(現行は4月)の祭礼では百済寺総門前まで神輿が渡御する。このような複数の集落による祭りは、中世の荘・郷単位の祭礼形態を残すものと考えられている。古くからの郷としてのつながりが深い地域における祭りを示している。十禅師神輿は日吉神社所蔵三基のうち、最も古い神輿である。【出典:東近江市愛東史の歴史より】

3) 百済寺本町集落を歩いてみて。

愛東マーガレットステーション方向から県道 229 号の百済寺本町バス停を右折するとまっすぐ東に延びるなだらかな登り道が百済寺への参詣道。この道の左右に百済寺本町の集落が広がっている。参詣道の中程まで進むと集落が途切れる右手側への三叉路になっていて角が日吉神社の森につながる。集落の一部は日吉神社を越えた裏側にも広がっている。日吉神社は南面を向き鳥居祭殿本殿が立ち並んでいて、祭殿の左の神輿蔵には祭礼用の神輿が収納されている。本殿正面にある賽銭箱前面に神社の家紋三頭巴が示されており、この家紋は日野町の蒲生氏郷の家紋のようである。鳥居前の道路からは東側から南側に向け、山裾からなだらかに連なる丘陵地に本町の水田地帯が広がっている。登って来た百済寺への参詣道をさらに進むと直ぐ左手に民家風の薬師堂と阿弥陀堂があり、続いて参詣道の左手が天台宗来迎山引接寺の山門となる。御住職の好意により、伽藍の奥に広がる 6 千体あると言われている五輪塔、石仏群を拝観させてもらった。住職自ら百済寺山中に埋まっていたものを運び出されて整備されたとのことでご苦労に頭が下がる。



□参詣道の左右の集落



□日吉神社角の標識



□日吉神社



□引接寺 山門



□引接寺石仏



□旧堤溜

* 今回は百済寺本町訪問に先立って愛知川上流山上町に化石樹見学と近くの流出水の水質確認も行った。化石樹は令和 5 年 8 月の豪雨で愛知川が増水した際に、山上町の河道で発見され R421 号沿い愛知川に合流する渋川との合流点近くに仮展示されている。説明看板によると、約 180 万年前の古琵琶湖層群蒲生層中から出土したものと見られ直径約 2m 上部は石化の途中、底部は化石化が進んでいる。このあたりはアケボノゾウの足跡化石も多く発見されており、メタセコイア属の化石樹と見られる。仮展示のすぐ横に渋川の上流谷からパイプで誘引している流出水があったので水質検査も行った。



□化石樹看板



□化石樹仮展示場所



□流出水

■令和6年6月13日(木)9:00-12:00 晴 参加者 6名

1. 活動先: 豊郷町石畑・四十九院・安食地区
- 2 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、湖東地区で山林のない平坦地に、米穀の豊穡を願って命名されたと言う豊郷町で明治 42 年大干ばつを機に始まった水源確保の大工事の歴史や現状を調査した。

1) 豊郷町の歴史と現状について。

同町は滋賀県東部、湖東平野に位置し山林のない平坦地田園風景が広がる滋賀県 19 市町村の中で最も小さな町である。同町の歴史遺産として「豊郷小学校旧校舎群」がある。1937 年に完成した。設計はアメリカ人建築家 ウィリアム・メル・ヴォーリス。平成 11 年(1999)豊郷小学校校舎改築問題で全国的に注目されたが、その後 公共施設の使用や復元教室として利用・保存されている。豊郷は農業だけでは食べていけない土地柄で、商いを業とする人材も多く、「近江商人」を輩出している。成功者の代表事例として伊藤忠兵衛。「商いは菩薩の業」「世の不足を埋めるのが商売」「世間で困っていることに手を貸すのが商売人」等の遺訓を残している。

2) 豊郷町の水利・用水の歴史的背景 として。

豊郷は犬上川一ノ井堰の用水筋の末流にあたる。灌漑期に日照りが数日続くと、用水は上流の村々にすべて取られてしまう。公平を期するため、時間を区切って水を分ける「御番水」という慣例もあったが、夜間も不眠不休で村に水を引き入れねばならず、さらに日照りが長引くとその水さえ田には届かなかった。また豊郷には犬上川の伏流水が湧く「出水池」をもつ集落もあったが、石畑・四十九院にはその恵みもなかった。止む無く 6m 以上の深さにある 200 余りの野井戸から、はねつるべで水を汲み上げたが、この重労働に全員であたっても水はとても足りず、大部分の田を放棄せざるを得なかった。両集落は水以外の面でも上流の村から理不尽な扱いを受けたという。この苦境から逃れたいという切なる思いがあった。

3) 龍ヶ池(石畑地区)・砂山池(四十九院地区)揚水機場について。

明治 42 年(1909)は 7 月 10 日から 8 月 27 日まで一粒の雨も降らない日照りが続く大干ばつに見舞われた。この干ばつをきっかけにして常に干ばつ・水不足に悩まされていた石畑(いしばたけ)・四十九院(しじゅうくいん)の地主有志が救済策として二つの池を掘り、動力ポンプによって地下水を揚水する計画を立てた。中心的役割を担った当時 27 歳の青年区長 村岸峯吉(のちに県会議員として活躍された)が県と折衝して「豊郷村耕地整理組合」を設立、翌年田植え時に間に合わせるべく突貫工事が始まった。当時はまだ電灯がなく、かがり火の下で延べ 1 万人を動員、日夜連続で作業が行われた。当時世界で最も高機能で優れていた揚水ポンプ「コンケロール式離心動ポンプ」をイギリスのアーレン社から購入し、龍ヶ池は明治 43 年 6 月 5 日、砂山池は 6 月 12 日に試運転が行われた。動力で地下水を汲み上げ灌漑用水に利用した揚水事業は国内最初の快挙であった。当初の動力ポンプは石炭蒸気稼動式でレンガ造りの煙突も現存している。ポンプはその後大正 10 年(1921)電動式に変わり、初代蒸気式 ポンプは豊郷小学校旧校舎一階の隅に展示されている。

護岸工事や水路改修工事が続行された上、大正 2 年(1913)11 月に竣工式が行われた二つの池は当初の姿を残したまま、現在も稼動中で、揚水した水を地区の水田に供給し続けている。現在は琵琶湖からの逆水も多用されているが、水温の低い地下水は美味しい米づくりに欠かせない。龍ヶ池揚水機場は 2024 年度の世界かんがい施設遺産の国内候補に挙げられており 9 月 ICID(国際かんがい排水委員会 本部インド)国際執行理事会での認定を待っている。

龍ヶ池揚水機場は現在、井戸内部再調査中で一時的に稼働が止まっているが、砂山池揚水機場は見学当日も揚水運転中で勢いよくきれいな揚水が用水路へ供給されていた。



□金網越し砂山池揚水機場



□道路脇の用水路全貌



□揚水場建屋を裏側から



□送水管から流出する揚水



□レンガ煙突



□枯れた砂山池



□龍ヶ池揚水機場全景



□龍ヶ池・砂山池事業史



□龍ヶ池揚水機

- 参考資料 1) 豊郷町教育委員会事務局社会教育課 豊郷町史編さん調査報告書 龍ヶ池調査報 告書.R6.3.25
 2) 水資源協会:水と共に第 2009 巻第 8 号.p24
 3) 豊郷村史編集委員会:滋賀県豊郷村史 藤川助三 .1963 年 S-2157-63,p244-247
 4) 滋賀県立図書館 :資料管理番号 2011-2051.2012.7.20

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

* 令和 6 年 5 月 17 日(金) 午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

天候:晴天(無風) 気温:24℃(AM9:30) 今日の琵琶湖:水位+8cm 参加者:4 名

観察状況 *新海浜は快晴、無風で波はほとんどなし。* 雑草は管理区域の外側で全体的にかなり生い茂っている。
 区域内の雑草は場所に偏りがある。* 湖岸側に張ったネットは防風効果が発揮されており、松葉は飛ばされていない。



湖岸風景



駐車場側の雑草(実施前)



レンゲ&雑草



ネットの防風効果

活動内容

- (1)保護区域外側の除草(駐車場側) <刈り払い機使用> (2)保護区域内の除草 (一部の区域は残す)
- (3)宇野さんとの情報交換・清田さん、他(全員)
- (4)アメリカネナシカズラを2名で自生地を探索したが見当たらず。

海浜植物

ハマエンドウ:開花はピークを過ぎているが、まだまだ紫色の花が観察される。昨年より生育面積が拡大して、ハマエンドウ自身も勢いがある。

* 保護区域に隣接して、除草していない区域のハマエンドウも元気に繁茂している。(写真①)

ハマゴウ:若い葉が出揃い、これから一気に成長する見込み。 * 日当たり箇所でのハマゴウは日陰効果があり、周辺では増えているのが確認できる。(写真②)

ハマヒルガオ:一部で開花している。



ハマエンドウ(花)



ハマゴウ&ハマヒルガオ



保護区域外のハマエンドウ①



ハマゴウ(日陰効果)②

連絡事項

- (1) 取材(予定) ・ハマゴウの花が咲いている 6 月に取材があり、実施日程が決まったら「海浜植物守りたい」のメンバーも都合をつけて出て欲しい(宇野さん)
- (2)取り除いた雑草は今後は一か所に山積みせずに、均等に地面に撒いて乾燥させる事とする。

* 令和 6 年 6 月 4 日(火) 9 時 30 分～11 時 30 分

天候:晴れ 気温:15℃(9 時 30 分) 今日の琵琶湖:水位-2cm

参加者:6 名 (新しく佐々木さんが見学に来られた)

観察状況 * 天気は良いが琵琶湖は風が強く波も高い。打ち上げられたゴミの下でハマヒルガオは元気がなさそうに見え、数も少なくなった。砂浜が狭くなったように感じる。* アメリカネナシカズラが 2 カ所、昨年と同じ場所に出てきた。すでに虫こぶもできている。丁寧に駆除した。2m×1, 5m及び 30 cm四方。

* ハマゴウが青々と葉と枝を伸ばしてきた。浜からの風が気持ちよく爽やかな作業日。

定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

活動内容

1. 保護区内除草(コバンソウ・ムラサキカタバミ・スズメノカタビラ等)
2. ツルニチニチソウの除去 (保護区外)
3. 保護区内の浜側(ネット前)にハマヒルガオとハマゴウがいきよいよく伸びてきた。今後、日陰として残す。

海浜植物

ハマエンドウ:種があちこちに確認できた。葉も大きく勢いも良い。保護区中央にも少しずつ広がりが確認できる。東側も緑が濃く広がってきた。

ハマゴウ: 葉が広がり枝も伸びてきた。まだ、花芽は確認できない。

ハマヒルガオ:例年のようには広がりが無いように思われる。保護区内は残すようにしているので、あちこちに広がってきた。



実をつけたハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



アメリカネナシカズラ



松葉の散布



寝起こし作業(ツルニチニチソウ)

*** 令和6年7月5日(金) 9時30分~11時30分**

天候:晴れ **気温:**29°C(11時30分) **今日の琵琶湖:**水位-3cm **参加者:**2名

観察状況 * 日差しが強く蒸し暑い日陰は涼しく感じた。* アメリカネナシカズラは1カ所(1m×1m)すでに虫こぶもできている。丁寧に駆除した。* 浜の東側のハマゴウが約250m²刈り取られていた。

活動内容

1. アメリカネナシカズラの駆除
2. 保護区内除草(カタバミ・スズメノカタビラ・メヒシバ、ツイクサ等)

海浜植物

ハマエンドウ:青々しているが、一部分夏枯れしているところがある。

ハマゴウ:所どころ花穂の上部が咲き始めている。全体に青々と葉と枝を伸ばし花が咲き始めた。

ハマヒルガオ:種ができている。花は見つからない、葉だけ。



アメリカネナシカズラ



ハマエンドウ



ハマゴウ

ハマゴウが刈り取られた現場



刈り取られたハマゴウ



トラロープと注意札(宇野さん設置)

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月～10月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
湖体験 琵琶湖に入 って生き物をさがそう	自然豊かな琵琶湖北湖の湖 岸の小さな島に船で渡り、島 の周辺の湖の中を歩いて 島々を渡りながら、鳥や魚、 貝類、水草などの生き物を 観察します。	2024 年 8 月 31 日	土	10 時 00 分～ 15 時 00 分	琵琶湖湖 岸(長浜 市湖北町 延勝寺・ 海老江)	※少雨決行 ※持ち物や注意 事項は参加が 決定した申込者 に連絡します。 ※水の中を 500 メートルほど歩 きます。参加者 の体調や体力 にご注意下さ い。 ※要事前申込

【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(1)	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	2024 年 9 月 8 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	暑さ対策をお願いします。 ※雨天中止 ※要事前申込
【わくわく探検隊】 プランクトンを見よう！	マイクロアクアリウムを体験します。プランクトンを顕微鏡で観察した後、それをモチーフにアート作品を作ります。	2024 年 9 月 14 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖 博物館 実 習 室 1、 水族展示 室	※先着 ※雨天決行
ちこあそ・9 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆつくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024 年 9 月 18 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10 時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
プランクトンでビンゴ	自分で採集したプランクトンを観察してビンゴをうめまします。琵琶湖に棲む小さな生きものたちをプランクトンネットで採集し、顕微鏡で観察できます。	2024 年 9 月 28 日	土	10 時 30 分～ 12 時 00 分	実 習 室 1、烏丸 半島	※少雨決行 ※濡れても良 い、ロープを投 げた際に引っ掛 からない格好で ご参加ください。 ※要事前申込
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(2)	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	2024 年 10 月 13 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	暑さ対策をお願いします。 ※雨天中止 ※要事前申込
ちこあそ・10 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆつくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024 年 10 月 16 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10 時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。

4. 生活実験工房からのお知らせ

7月28日に昆虫採集イベントを実施しました。当日は、真夏日でしたが、お陰様で、無事に行事を終えることができました。

参加者の方より、「昆虫採集が楽しかった！」というお言葉を頂きました。参加者の皆様には、楽しみながら昆虫採集をしていただくことができたようで、本当に良かったです。

工房内の田んぼの稲も元気にスクスク育っております。

今後の農作業のイベントは以下のとおりです。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

9月 8日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
10月 13日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
12月 22日(日) しめ縄づくり
2月 9日(日) わら細工



▲昆虫採集方法についての説明



▲昆虫採集の様子

担当: 環境学習・交流係

5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。